

熊本県芦北町及び水俣市境界の大関山における巣箱自動撮影法による
ヤマネ *Glirulus japonicus* の生息確認

長峰 智¹⁾, 天野 守哉^{1, 2)}

¹⁾熊本野生生物研究会, ²⁾熊本県立熊本工業高等学校

Confirmation of Japanese dormouse (*Glirulus japonicus*) with nest boxes
and sensor camera in Oozekiyama of the boundary between Asikita Town
and Minamata City, Kumamoto Prefecture, Kyusyu, Japan

Satoru Nagamine¹⁾, Moriya Amano^{1, 2)}

¹⁾Kumamoto Wildlife Society, ²⁾Kumamoto Prefectural Kumamoto Technical High School

熊本県芦北町及び水俣市境界の大関山における巣箱自動撮影法による ヤマネ *Glirulus japonicus* の生息確認

長峰 智¹⁾, 天野 守哉^{1, 2)}

¹⁾熊本野生生物研究会, ²⁾熊本県立熊本工業高等学校

Confirmation of Japanese dormouse (*Glirulus japonicus*) with nest boxes and sensor camera in Oozekiyama of the boundary between Asikita Town and Minamata City, Kumamoto Prefecture, Kyusyu, Japan

Satoru Nagamine¹⁾, Moriya Amano^{1, 2)}

¹⁾Kumamoto Wildlife Society, ²⁾Kumamoto Prefectural Kumamoto Technical High School

はじめに

熊本県南部の水俣・芦北地域周辺では熊本県 RDB 補完調査の一環として、水俣市久木野大川地区の2つの林分（大川国有林と寺床民有林）及び久木野城山において、巣箱自動撮影法による樹上性哺乳類の調査がおこなわれてきた（坂田ほか 2010；長峰ほか 2015；長峰 2019）。その結果、県内において絶滅のおそれのある樹上性哺乳類として、大川国有林でヤマネ *Glirulus japonicus* とニホンモモンガ *Pteromys momonga* の生息が、また、寺床民有林でヤマネの生息が久木野地域で初めて確認された（坂田ほか 2010；長峰ほか 2015）。ほかにムササビ *Petaurista leucogenys* の生息も確認された。なお、久木野城山ではムササビは確認されたが、ヤマネ及びニホンモモンガは確認されていない（長峰 2019）。

一方、これら3カ所の調査地は比較的低標高地（210 m～510 m）であり、大関山周辺の高標高地におけるヤマネの確認はできていなかった（吉倉 1988）。そこで、ヤマネ生息の報告がされた寺床民有林（長峰ほか 2015）に近い、本種の生息可能性が高いと推測された大関山から国見山の稜線部において、樹上性哺乳類の調査をおこなった。その結果、芦北町側でヤマネの生息を確認したので報告する。

本調査は熊本県 RDB 補完調査の一環として実施され、熊本南部森林管理署には国有林への入林許可をいただいた。また、対象種の捕獲については熊本県から許可を得た（許可証番号令和2年度3号）。

調査地の選定にあたり森林総合研究所九州支所の安田雅俊氏には貴重な助言をいただいた。調査に際しては本

会会員の歌岡宏信、長尾圭祐、前田史和、村田健二、及び熊本記念植物採集会の坂梨仁彦の各氏に協力いただいた。以上の方々に記して感謝申し上げる。

調査地と方法

大関山（標高 902 m）は葦北郡芦北町と水俣市との境界に位置しており、水俣・芦北地域では最高峰である。調査地は大関山と国見山（標高 867 m）の中間の稜線上で、ヤマネが確認された寺床民有林から北北西約1.5 km の地点に位置し、北緯32度11分41秒、東経130度31分40秒、標高860～870 m である（図1）。稜線上には国見山への登山道があり、稜線をはずれると侵食された急傾斜の斜面になっている。

調査地は国有林で国見山北側斜面に古い炭焼き窯跡があり、薪炭林が放置されたと思われる二次林である。林相はアカガシ *Quercus acuta* を優占種として、シデ類やカエデ類が高木層を、ヤブツバキ *Camellia japonica* やサザンカ *Camellia sasanqua* などが亜高木層を、そしてヒサカキ *Eurya japonica* やハイノキ *Symplocos prunifolia* などが低木層を形成している常緑広葉樹林である。特にアカガシは胸高直径50 cm と太いものが多く、胸高直径5～10 cm ほどのサザンカなどの細い木が多い中であって、その存在が目立っている。林床はニホンジカ *Cervus nippon* の食害のためか、下草がほとんど見られず、常緑広葉樹の枯れ葉で覆われている（図2）。

巣箱は2020年8月2日、大関山から国見山の稜線を挟んで、水俣市側と芦北町側にそれぞれ6個ずつ、計12個設置した。それらは地面から約2 m の高さに樹種や方位を選ばず互いに20～40 m 離して設置した。巣箱の大き

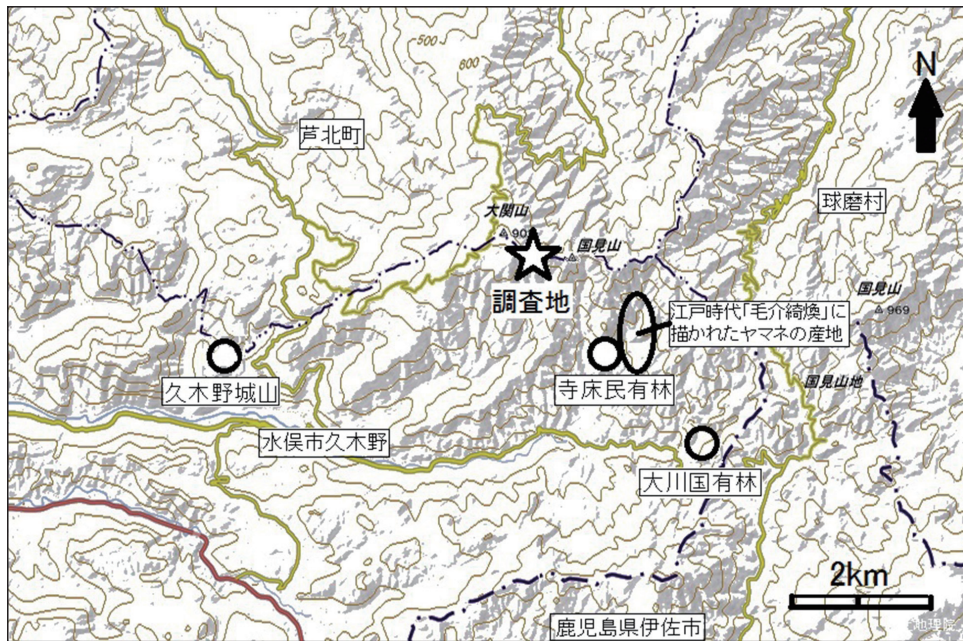


図1 調査地及び周辺地図（地理院地図（新版）レベル13をカシミール3Dで表示し、調査地等の位置及び地名を追記した）



図2 調査地の森林の様子



図4 巣箱から逃げ出し枝につかまっているヤマネ



図3 巣箱の中の巣材から頭を出したヤマネ



図5 自動撮影装置に写ったヤマネ

さは前面の高さ220 mm、背面の高さ360 mm、幅150 mm、奥行き170 mmで全面中央やや上寄りに直径40 mmの円形の穴を開けた。穴の下方には幅60 mmで一辺20 mmの角材を止まり木として打ち付けた。巣箱上面はステンレス製の蝶番で開閉できるようにした。材料は厚さ13 mmのスギ材を用いた。巣箱はシュロ縄で樹木に固定した。また、設置した12か所の巣箱のうち6か所に自動撮影カメラ「センサーカメラ Fieldnote DUO」（麻里府商事，山口県）を設置した。自動撮影カメラは巣箱から1～1.5 m離れた樹木の幹に真横またはやや斜め上あるいはななめ下に固定した。その後2020年9月12日に最初の見回りをおこない、2回目を2020年10月10日におこない終了した。

結果と考察

2020年9月12日に巣箱と自動撮影装置の最初の見回りをおこなった。6台の自動撮影装置にはヤマネは写っていなかった。しかし、12個の巣箱の内、1つの巣箱で本種の成獣が1頭確認できた。最初、ヤマネは巣箱の中に敷き詰められたコケなどの巣材に隠れていたが、小枝で巣材をそっと持ち上げると、ヤマネが巣材の中から頭を出してきた（図3）。仔はいなかった。その後、本個体が巣箱から逃げ出し、木の枝につかまっているところを持参したカメラで撮影した（図4）。また、この巣箱には自動撮影装置を設置していなかったため、新たに本装置を取り付けた。

2回目の見回りを2020年10月10日におこなった。その結果、前回見回りでヤマネを確認した巣箱には巣材のみが残されており、ヤマネはいなかった。また、他の11個の巣箱にも本種はいなかった。しかし、前回新たに設置した自動撮影装置のデータには2020年9月14日5時13分撮影でヤマネの成獣1頭が写っていた（図5）。このほかの自動撮影装置には本種は記録されていなかった。

なお、調査期間中目視により巣箱内でヤマネ以外の哺乳類は観察されなかった。また、自動撮影装置に記録された哺乳類はニホンジカが確実に同定できた。他にイノシシ *Sus scrofa*、アナグマ *Meles anakuma*、及びテン *Martes melampus* と思われる動物が記録されていた。

安田・坂田（2011）はヤマネの好適環境について、標

高という物理的要因ではなく、むしろ、人為攪乱の程度が小さく、営巣や食物確保が容易な林齢が高い天然林であると推察している。一方、大関山山体の森林はスギ *Cryptomeria japonica* やヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の人工林の間に発達した二次林がパッチワーク状あるいは帯状に残されており、今回の調査地も大関山から国見山の稜線上にわずかに残された常緑広葉樹林である。人工林が皆伐された後、植林されたり、放置されてススキ *Miscanthus sinensis* に覆われたりした箇所もある。このように本地域はヤマネの生息にとって厳しい環境となっているが、今回の調査で水俣市との境界に近い芦北町側の高標高地（860 m）でヤマネが初めて確認された意義は大きい。このことは芦北町の他の森林にもヤマネが生息している可能性を示しており、すでに本種が確認されている水俣市側の大川国有林や、江戸時代の図譜『毛介綺煥』に描かれたヤマネ産地近くの寺床民有林とともにヤマネの時空の拡がり期待できる。まずはヤマネの生息域である森林生態系の保全が望まれる。

引用文献

- 長峰 智・安田雅俊・坂田拓司. 2010. 18世紀中葉の毛介綺煥に描かれたヤマネ *Glirulus japonicus* の産地の特定. 熊本野生生物研究会誌 (6) : 29-32.
- 長峰 智・安田雅俊・坂田拓司. 2015. 江戸時代の図譜『毛介綺煥』に描かれたヤマネ *Glirulus japonicus* の産地における生息の確認の意義. 熊本野生生物研究会誌 (8) : 11-14.
- 長峰 智. 2019. 水俣市久木野城山における自動撮影カメラによる哺乳類調査. 熊本野生動物研究会誌 (9) : 37-40.
- 坂田拓司・安田雅俊・長峰 智. 2010. 熊本県水俣市大川におけるニホンモモンガ *Pteromys momonga* とヤマネ *Glirulus japonicus* の確認. 熊本野生生物研究会誌 (6) : 23-28.
- 安田雅俊・坂田拓司. 2011. 絶滅のおそれのある九州のヤマネ—過去の生息記録からみた分布と生態および保全上の課題—. 哺乳類科学 51 No. 2 : 287-296.
- 吉倉 眞. 1988. 熊本の陸生哺乳動物 (2) 分布と実態. 土龍 (13) : 100-117.

受付日：2020年11月10日 受理日：2020年11月21日

連絡先：長峰 智

〒867-0281 熊本県水俣市久木野1011-2

電子メール s-naga.hst@nifty.com